<表紙記載項目>

2022 年度 帰国隊員支援プロジェクト 実施完了報告書
(協力活動) / 調査・研究)

提出日:2024 年 8 月 9 日

氏名:田仲 永和

プロジェクト名称:進学をあきらめさせない教育環境を!

～ズールー中等学校の建設～

実施国: マラウイ共和国

実施期間:2022 年 12 月 1 日～2023 年 12 月 18 日

1 活動実施内容概要

本プロジェクトはマラウイ共和国ムチンジ県ズルーエリアに中等学校を建設するプロジェクトである。中等学校を新設することにより、ドロップアウト率の上昇や進学率の向上が期待される。

2022年12月までに、チーフコーディネーターを中心に、村開発委員会、プロジェクト委員会を招集し、今後のプロジェクトの流れについて確認を行った。その後、プロジェクトコーディネーターのジョナサン氏に計497,000円をWestern Unionにて2回に分けて送金し、受領を確認した。(1回目:2022年12月10日242,000円、2023年1月7日255,000円)

物価の高騰などがありつつも、この金額でできる範囲の校舎の床や内側のセメント打ち、木材とトタン材にて屋根作りまで完了した。

その後、ジョナサン氏が2023年3月にマラウイを襲った超大型サイクロン「フレディ」の被災地支援活動に従事するなどし、2か月ほどの中断を余儀なくされていた。

また、同年4月初め、マラウイで最大の通信会社Airtel Malawiが主催する国民的英雄表彰で、マラウイ全土で英雄8人のうちの1人に選ばれた。受賞理由は、小さなハートプロジェクトで作ったラーニングセンターで旗振り役となり、その後も地域への貢献が認められたことによる。

2023年5月初旬、いよいよ、完成に向け残りの資材の購入と工事を再開しようとしていた矢先、自宅の火災により、ジョナサン氏が亡くなってしまった。現地とプロジェクトについて、連絡を取り合うことが困難な状態に陥り、数か月連絡ができないままだったが、ジョナサン氏の父とコンタクトを取り合うことができるようになった。

「自分にできるかどうかわからないが、息子の遺志をついで、プロジェクトを進めてみる」とジョナサン父の意思を確認できたため、プロジェクトを再開することとした。

ジョナサン父から業者に残りの工事部分の見積もりを再依頼し、精査した結果、日本円で約30万円が必要なことが判明した。この金額に関しては、2022年に申請を出した当時から、マラウイの物価が2倍近く(物によっては3倍以上)に高騰していることも影響している。大幅に資金が不足することになってしまったため、私自身の自己資金を増額し補填することとした。

校舎の工事の完成予定を2024年3月まで大幅に延期させていただき、5月の引き渡し時に渡航し、現地視察を行うこととした。

2024年5月にマラウイの現地ズルー村を訪問した。現コーディネーターのジョナサン父だけでなく、ムチンジ県教育長、族長(Traditional Authority)、村長など、関係者一同が同行し、ジョナサン氏の墓参りを行った。県教育長や族長レベルが、いち小学校教員の墓参りに参列することは異例であり、ジョナサン氏の存在の大きさが分かる出来事であった。

その後、校舎前で集まってもらい、校舎の視察及び現状の聞き取りを行った。

本校舎(教室2つ分)は建物としては完成していたが、現地の物価高騰(約3倍)により、窓枠、黒板などの細部の完成までにはいたっていなかった。

しかしながら、ズルー村は、村をあげて本プロジェクトに前向きに取り組み、すでに完成していた本校舎分だけでなく、これから建設を計画している教職員住宅やトイレ棟など、学校開学に必要な他の建物に活用できる十分なレンガを作り、保有している。

物価高騰で、物資購入に支障が出ていること、県や村が協力している体制が明らかになったので、プロジェクトが少しでも前進するように日本円で8万円程度を自費で追加現金支援した。マラウイ政府からのさらなる支援の呼び水になることを期待したい。

本プロジェクトとは少し離れるが、同じくムチンジ県教育長とジョナサン氏が関わったプロジェクトである、ムクンダ村のラーニングセンター(2018年に小さなハートプロジェクトで建設)のその後も視察を行った。(ムクンダ村とズルー村は車で20分ほどの距離に位置する)

このラーニングセンターは建設当初、2つの教室の間に職員室が1つある、校舎のみであった。その後、政府から正式に1年生~3年生までが通う、準小学校(Junior Primary School)に格上げされ、ボランティア教師だけでなく、正式な教員が配置されることとなった。

その後、年を追うごとに受け入れ学年を拡大し、2024年5月現在、1年生~5年生まで約680人を受け入れている。校舎は当初から、2棟増築し、併せて海外の支援機関のサポートを村で申請しポンプ式井戸の設置もしていた。受け入れ児童数の増加に伴い、新たなトイレの増築をしている最中であった。

さらに、つい数か月前に、別の支援機関のサポートにより、校舎2棟のうち1棟の屋根にソーラーパネルを設置し、なんとタブレット端末を使ったICT教育の実験校ともなっているほどの変容ぶりであった。

あと数年後には学年をさらに拡大し、1年生~8年生が通うことのできる標準小学校(Full Primary School)になる見込みである。このように発展できたのは、まぎれもなく小さなハートプロジェクトがあったからこそであり、さらに、ジョナサン氏、ムチンジ県教育長の働きかけがあったからでもある。

ズルー中等学校においても、ムチンジ県教育長が協働しているため、同様の発展を期待したい。

2 活動の結果・成果(具体的に何がどう変わったか、何がどういった状態に変化したかを記述)

ズルー中等学校の校舎の床、壁、屋根の工事を行うことができた。建物の外側のセメント打ちや、ペンキ塗り、窓取付工事を引き続き実施予定である。

3 (申請時に)期待された成果と実際の相違点。異なる場合はその原因と対処内容、及び

その対応による結果

ジョナサン氏死去により、工期に大幅な遅れが発生している。彼の父とコンタクトができるようになり、残りの工事を再開し、校舎完成を2024年3月～4月頃予定し、その後2024年5月頃の現地視察を予定した。

上記のスケジュール感での進捗を期待していたが、やはり、新たにコーディネーターとなったジョナサン父にジョナサン氏ほどのマネジメント力がなく、進行が遅い。連絡も1つの確認事項に対する返答が1週間またはそれ以上かかることもあり、学校開学に到達するまでに、これまで以上に辛抱強くサポートしていくことが必要である。

4 活動成果の持続発展性

本活動については、現地とコンタクトを継続し、学校開学まで必要な助言・サポートしていきたい。一旦開学すれば、現地の初等学校卒業後の進学率が広がることにより、進学率向上に大きく寄与することが期待される。当地のムチンジ県教育長からは、教員の人員派遣などには全面的に協力するとの回答を得ている。

5 苦勞した点、反省点、本活動を通じて得られたこと、学んだこと、教訓等

プロジェクトコーディネーターのジョナサン氏の死去に伴い、プロジェクトそのものが一度頓挫した。ジョナサン氏が関係機関との連携や村の運営組織を構築していたとはいえ、その旗振り役がいなくなることで、全体の調整が難しくなった。それでも、ジョナサン父の以下の言葉に励まされながら現在も続けることができている。

“Action without Vision is a wastage of time, Vision without Action is just a dream, but Vision with Action can change things. Which means my vision plus action done by late Jonathan and you are going to change things in our community.”

6 ご自身の今後のプラン、及び本活動の活用予定・計画

国際理解教育、SDGsの教育の推進を微力ながら進めていく。現在は、君津市教育センターにおいて、各種教育の推進を市全体に提案できる立場を活かし、世界平和の構築のためにも、少しでも多くの教職員へ普及させていきたい。

教職員向けの研修会においては、すぐに使える指導技術などの内容が好まれる現状にある。しかしながら、それはあくまで枝葉の部分であり、「教育は何のためにあるのか」「なぜ学校が必要なのか」という根幹の部分を伝えなくては、教育の発展はあり得ないと考えている。

前回の小さなハートプロジェクトに加え、今回のプロジェクトに挑戦させていただく過程で、否が応でもこのことについて考えをめぐらす機会に恵まれた。ゼロから地域の学校を立ち上げるという経験は教育に携わる身として、かけがえのない経験となった。

この経験を私なりに咀嚼し、伝えていきたいと考えている。